

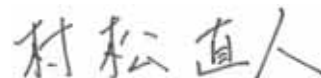
■財務諸表に係る確認書贈本

「財務諸表の正確性、内部監査の有効性についての経営者責任の明確化について（要請）」（平成17年10月7日付金監第2835号）に基づく、当社の財務諸表の適正性、及び財務諸表作成に係る内部監査の有効性に関する代表者の確認書は以下のとおりです。

確 認 書

平成23年6月27日

株式会社ジャパンネット銀行
代表取締役社長



- 1.私は、当社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第11期の事業年度の財務諸表に記載した内容が、「銀行法施行規則」等に準拠して、全ての重要な点において適正に表示されていることを確認いたしました。
- 2.当社は、財務諸表を適正に作成するため、以下の体制を構築しておりますが、私は、当該財務諸表の作成に当たり、この体制が適切に機能したことを確認いたしました。
 - (1) 業務分掌と所管部署が明確化され、各所管部署が適切に業務を遂行する体制
 - (2) 財務諸表作成プロセスが明文化され、所管部署自らが当該プロセスの適切性・有効性を検証する体制
 - (3) 内部監査部門が所管部署における内部管理体制の適切性・有効性を検証し、取締役会等で適切に報告する体制
 - (4) 重要な経営情報が取締役会へ適切に付議・報告される体制

以上

会社法第396条第1項に基づき、当社の前事業年度の会社法第435条第2項に定める計算書類およびその附属明細書は、あずさ監査法人の監査を受けております。また、当事業年度の会社法435条第2項に定める計算書類およびその附属明細書は、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けております。

なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成22年7月1日をもって有限責任 あずさ監査法人となっております。

※記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

■貸借対照表

(金額単位:百万円)

	平成21年度末 平成22年3月31日現在	平成22年度末 平成23年3月31日現在		平成21年度末 平成22年3月31日現在	平成22年度末 平成23年3月31日現在
資産の部			負債の部		
現金預け金	2,216	11,447	預金	443,819	458,045
預け金	2,216	11,447	普通預金	261,448	289,924
コールローン	75,000	90,000	定期預金	181,479	167,156
買入金銭債権	10,627	8,999	その他の預金	891	964
金銭の信託	8,010	9,010	コールマネー	17,100	—
有価証券	386,413	362,787	その他負債	11,524	12,202
国債	112,542	88,005	未払法人税等	8	8
地方債	1,467	4,981	未払費用	1,696	1,401
社債	262,391	259,214	前受収益	8	11
その他の証券	10,011	10,585	先物取引受入証拠金	8,284	9,325
貸出金	25,049	25,380	金融派生商品	872	850
証書貸付	657	559	資産除去債務	—	35
当座貸越	24,391	24,820	その他の負債	654	570
その他資産	8,072	5,773	賞与引当金	101	106
未収収益	1,541	1,423	退職給付引当金	50	76
先物取引差入証拠金	1,710	7	役員退職慰労引当金	6	11
金融派生商品	1,532	1,636	繰延税金負債	245	—
その他の資産	3,288	2,705	負債の部合計	472,849	470,443
有形固定資産	416	468	純資産の部		
建物	15	135	資本金	37,250	37,250
その他の有形固定資産	400	332	資本剰余金	4,626	4,626
無形固定資産	4,186	3,953	資本準備金	4,626	4,626
ソフトウェア	4,186	3,953	利益剰余金	4,237	6,207
繰延税金資産	—	525	その他利益剰余金	4,237	6,207
貸倒引当金	—	△33	繰越利益剰余金	4,237	6,207
資産の部合計	519,991	518,311	株主資本合計	46,114	48,084
			その他有価証券評価差額金	1,027	△215
			評価・換算差額等合計	1,027	△215
			純資産の部合計	47,141	47,868
			負債及び純資産の部合計	519,991	518,311

■損益計算書

(金額単位:百万円)

	平成21年度 平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	平成22年度 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
経常収益	19,422	18,381
資金運用収益	8,063	7,372
貸出金利息	4,070	4,059
有価証券利息配当金	3,605	3,105
コールローン利息	307	175
預け金利息	0	0
その他の受入利息	79	31
役務取引等収益	10,389	9,583
受入為替手数料	4,859	4,700
その他の役務収益	5,530	4,883
その他業務収益	966	1,404
外国為替売買益	—	538
国債等債券売却益	961	855
国債等債券償還益	5	—
金融派生商品収益	—	9
その他経常収益	2	20
金銭の信託運用益	0	2
その他の経常収益	2	18
経常費用	17,132	16,278
資金調達費用	1,184	789
預金利息	1,175	789
コールマネー利息	9	0
役務取引等費用	6,780	6,747
支払為替手数料	1,734	1,684
その他の役務費用	5,045	5,063
その他業務費用	256	69
国債等債券売却損	143	69
金融派生商品費用	112	—
営業経費	8,654	8,620
その他経常費用	257	51
貸倒引当金繰入額	—	5
株式等売却損	98	28
その他の経常費用	158	16
経常利益	2,290	2,102
特別利益	49	—
移転補償金	49	—
特別損失	248	43
固定資産処分損	46	21
減損損失	201	21
税引前当期純利益	2,091	2,059
法人税、住民税及び事業税	8	8
法人税等調整額	△143	82
法人税等合計	△134	90
当期純利益	2,225	1,969

■株主資本等変動計算書

(金額単位:百万円)

	平成21年度 平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	平成22年度 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
株主資本		
資本金		
前期末残高	37,250	37,250
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	37,250	37,250
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	4,626	4,626
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	4,626	4,626
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
前期末残高	2,012	4,237
当期変動額		
当期純利益	2,225	1,969
当期変動額合計	2,225	1,969
当期末残高	4,237	6,207
株主資本合計		
前期末残高	43,889	46,114
当期変動額		
当期純利益	2,225	1,969
当期変動額合計	2,225	1,969
当期末残高	46,114	48,084
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	△3,401	1,027
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	4,428	△1,243
当期変動額合計	4,428	△1,243
当期末残高	1,027	△215
純資産合計		
前期末残高	40,487	47,141
当期変動額		
当期純利益	2,225	1,969
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	4,428	△1,243
当期変動額合計	6,654	726
当期末残高	47,141	47,868

(平成22年度)

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券については決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

有形固定資産は、建物は定額法、動産は定率法を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物 15年～18年

その他 5年～6年

(2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法により償却しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

まず、取引先を自己査定に基づき、「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」(日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号)に規定する、正常先債権・要注意先債権・破綻懸念先債権・実質破綻先債権・破綻先債権に分類しております。正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、予想貸倒率等に基づき引き当てております。

破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認める額を引き当てております。

破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を引き当てております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、本部各々が資産査定を実施し、当該部署から独立したリスク管理部が査定結果を検証しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しております。

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、「退職給付会計に関する実務指針(中間報告)」(日本公認会計士協会会計制度委員会報告第13号)に定める簡便法により、当事業年度末における退職給付債務(自己都合要支給額)を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく当事業年度末の要支給額を計上しております。

5. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税(以下、消費税等という。)の会計処理は、税抜方式によっております。なお、有形固定資産等に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

会計方針の変更

(資産除去債務に関する会計基準)

当事業年度から「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ2百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は35百万円であります。

注記事項

(貸借対照表関係)

- 無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に合計47,156百万円含まれております。
- 貸出金のうち、破綻先債権額は0百万円、延滞債権額は96百万円であります。
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権以外の貸出金であります。
- 貸出金のうち、3ヶ月以上延滞債権額は1百万円であります。
なお、3ヶ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- 破綻先債権額、延滞債権額及び3ヶ月以上延滞債権額の合計額は98百万円であります。
- 担保に供している資産は次のとおりであります。
担保に供している資産
有価証券 24,220百万円
担保資産に対応する債務は該当ありません。
上記のほか、為替決済等の取引の担保として、有価証券43,652百万円及び預け金30百万円を差し入れております。また、その他資産のうち保証金敷金は298百万円であります。
- 当座貸越契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、64,230百万円であります。
これらは全て原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものであります。
これらの契約は、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由のあるときは、当社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約後も定期的に予め定めている社内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。
- 有形固定資産の減価償却累計額 1,640百万円
- 1株当たりの純資産額 55,660円99銭
- 関係会社に対する金銭債権総額 40,356百万円
- 関係会社に対する金銭債務総額 19百万円
- 銀行法第18条の定めにより剰余金の配当に制限を受けております。
剰余金の配当をする場合には、会社法第445条第4項(資本金の額及び準備金の額)の規定にかかわらず、当該剰余金の配当により減少する剰余金の額に5分の1を乗じて得た額を資本準備金又は利益準備金として計上することとなります。

(損益計算書関係)

- 関係会社との取引による収益
資金運用取引に係る収益総額 229百万円
役務取引等に係る収益総額 55百万円
その他業務・その他経常取引に係る収益総額 1,229百万円
関係会社との取引による費用
役務取引等に係る費用総額 217百万円
その他の取引に係る費用総額 6百万円
- 1株当たり当期純利益金額 2,290円28銭
- 減損損失

当事業年度において、以下の資産について、帳簿価額全額を減損損失として特別損失に計上しております。

場所	用途	種類	減損損失(百万円)	減損に至った経緯
—	銀行業務用資産	ソフトウェア	21	一部サービスのシステム移行に伴い、除却見込となったため

(株主資本等変動計算書関係)

1.株式に関する事項

	前事業年度末株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数	摘要
普通株式	576,200	—	—	576,200	—
第一種無議決権株式	283,800	—	—	283,800	—
合計	860,000	—	—	860,000	—

(金融商品関係)

1.金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に関する取組方針

当社は、インターネット専業銀行として、顧客からの預金受入れ及び市場からのコールマネーにより調達を行い、個人向けローン及び有価証券の購入等にて運用を行っております。

主として金利変動を伴う金融資産及び金融負債を有しているため、金利変動による不利な影響が生じないように、当社では、資産及び負債の総合的管理(ALM)を行っております。その一環として、デリバティブ取引を行っております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する金融資産は、主として有価証券(資産全体の69%程度)であります。保有有価証券の主な内訳は、国債、地方債、財投債、社債及び投資信託であり、主にその他有価証券として保有しておりますが、一部は満期保有目的の債券として保有しております。これらは、それぞれ発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。

また、個人向けローン(資産全体の4%程度)は、全て保証会社の保証付貸出金であり、直接的な信用リスクには晒されておられません。しかしながら、当該保証会社は消費者金融業者であり、消費者金融業を巡る経営環境等の状況が悪化し、保証を受けられない事態が生じた場合には、信用リスクに晒される可能性があります。

その他の金融資産として、短期のコールローン及び買入金銭債権を保有しております。

当社の金融負債は、主として預金(負債全体の97%程度)であり、普通預金、定期預金及びその他の預金から成り立っております。また、コールマネーによる資金調達も行っております。いずれの負債も金利の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、債券の相場変動のリスクをコントロールする目的で債券先物取引及び金利先物取引を行い、投資信託の相場変動のリスクをコントロールする目的で株価指数先物取引を行っております。また、外国為替証拠金取引及びそのカバー取引として、通貨関連取引を行っております。なお、これらの取引はいずれもヘッジ会計は適用していません。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

当社では、取締役会において定めた普遍的な基本方針「クレジット・ポリシー」に従い、信用リスク管理体制を社内規程に定め、信用リスクのコントロールに努めております。また、資産の健全性を確保し、資産内容を客観的に反映した正確な財務諸表の作成及び適切な償却引当を行うため、取締役会において自己査定及び償却引当の規程を定めております。各部門から独立した業務監査室が、信用リスク管理状況につき定期的に監査を行い、与信業務の牽制を行うとともに、取締役会等に監査結果の報告を行っております。

②市場リスクの管理

(i)金利リスクの管理

当社では、金利リスク管理の対象となる資産・負債を特定した上で、そのポートフォリオから生じる現在価値変動額に対してリスク量上限を設定し、日次でその遵守状況を管理しております。また、定期的にイールドカーブの形状変化(フラットニングやスティーブニング)に対する現在価値変化の分析も実施し、資産・負債に与える影響をモニタリングしております。リスクモニタリングにあたっては、フロント・ミドル・バックオフィスの組織的な分離を行ったうえで、業務部門から独立したリスク管理部において実施する体制としております。モニタリング結果は日次で社内報告を行うとともに、定期的にALM委員会や取締役会にも報告し、相互牽制体制を確保しております。

(ii)為替リスクの管理

当社は、為替の変動リスクは保有していません。

(iii)価格変動リスクの管理

金利リスク管理と同様、価格変動リスク管理の対象となる資産・負債を特定した上で、そのポートフォリオの取得原価に対してリスク量上限を設定し、日次でその遵守状況および時価を管理しております。

また、定期的に、ストレス発生時での価格下落に対する時価変化の分析も実施し、資産・負債に与える影響をモニタリングしております。

(iv)デリバティブ取引

金利リスク管理および価格変動リスク管理の対象となる資産・負債の現在価値変動をコントロールする目的で保有するものについては、金利リスク管理または価格変動リスク管理の枠組みの中で、それぞれ管理しております。また、外国為替証拠金取引及びそのカバー取引の状況については、リスク管理部においてモニタリングするとともに、その結果を日次で社内報告しております。

(v)市場リスクに係る定量的情報

(ア)トレーディング目的の金融商品

当社は、トレーディング目的の金融商品は保有していません

(イ)トレーディング目的以外の金融商品

当社において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける金融資産は、コールローン、買入金銭債権、有価証券のうち満期保有目的の債券及びその他有価証券に分類される債券、貸出金であり、これらで資産全体の88%程度を占めております。なお、現金預け金、金銭の信託及び貸出金のうち当座貸越は、期日の定めがないため金利リスク管理の対象に含めておりません。金融負債は、預金、コールマネーであり、負債全体の97%程度を占めております。また、デリバティブ取引は、債券先物取引、金利先物取引であります。

当社では、これらの金融商品について、金利変動によるポートフォリオの現在価値の変化額として「BPV(ベース・ポイント・バリュー:金利が0.01%変化したときの時価評価変化額)」を算定し、金利変動リスク管理にあたっての定量的分析に利用しております。BPVの算定にあたっては、対象となる金融商品を商品分類ごとに、それぞれ金利期日等に応じて適切なキャッシュフローに分解し、当社が定める期間ごとの金利変動による変化額を用いております。金利以外のすべてのリスク変数が一定であることを仮定し、平成23年3月31日現在、指標となる金利が1ベース・ポイント(0.01%)上昇したものと想定した場合には、当該金融商品の時価評価額が純額で50百万円減少し、1ベース・ポイント(0.01%)下落したものと想定した場合には、純額で50百万円増加するものと把握しております。

当該変化額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数との相関を考慮しておりません。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

当社では、資金調達において、短期資金（O/N～1ヶ月物）への過度の依存を防ぐために、短期の要資金調達額に対して上限を設定し、日次でその遵守状況をモニタリングしております。また大量の預金流出など緊急時の資金調達に備えるため、資金化が可能な資産の残高状況についてもモニタリングしております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	11,447	11,447	—
(2) コールローン	90,000	90,000	—
(3) 買入金銭債権	8,999	8,999	—
(4) 金銭の信託	9,010	9,010	—
(5) 有価証券			
満期保有目的の債券	20,033	20,523	490
その他有価証券	342,754	342,754	—
(6) 貸出金	25,380	25,380	—
資産計	507,624	508,115	490
(1) 預金	458,045	458,285	239
負債計	458,045	458,285	239
デリバティブ取引(*1)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	786	786	—
デリバティブ取引計	786	786	—

(*1) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を、正味の債権・債務の純額で表示しております。

合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。なお、預け金はすべて満期のないものであります。

(2) コールローン、(3) 買入金銭債権

これらは、残存期間が短期間(6ヶ月以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(4) 金銭の信託

運用目的でなくかつ満期のない金銭の信託については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。なお、金銭の信託はすべて運用目的でなくかつ満期のないものであります。

また、保有目的ごとの金銭の信託に関する注記事項については、「(金銭の信託関係)」に記載しております。

(5) 有価証券

債券は、取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

変動利付国債については、「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第25号平成20年10月28日)を踏まえ、合理的に算定された価額をもって貸借対照表計上額としております。

なお、変動利付国債の合理的に算定された価額は、国債の利回り等から見積もった将来キャッシュ・フローを同利回りに基づく割引率を用いて割り引くことにより算定しており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティが主な価格決定変数であります。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「(有価証券関係)」に記載しております。

(6) 貸出金

貸出金のうち、最終返済期限までの残存期間が短期間(6ヶ月以内)のもの、及び当座貸越で返済期限を設けていないものは、時価が帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。最終返済期限までの残存期間が6ヶ月を超えるものは、貸出金の種類ごとに、元利金の合計額を新規貸出を行う際の利率で割り引いて時価を算定しております。

負 債

(1) 預金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、残存期間が短期間(6ヶ月以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は、通貨関連取引であり、取引金融機関から提示された価格によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は保有しておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額 (単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
コールローン	90,000	—	—	—	—	—
買入金銭債権	9,000	—	—	—	—	—
有価証券						
満期保有目的の債券	1,000	1,400	3,300	12,300	2,000	—
その他有価証券のうち満期があるもの	108,473	55,523	131,548	23,419	16,200	—
貸出金(*)	48	201	201	107	—	—
合計	208,522	57,125	135,049	35,826	18,200	—

(*) 貸出金のうち、当座貸越24,820百万円は含めておりません。

(注4) その他の有利子負債の決算日後の返済予定額 (単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金(*)	144,586	15,534	1,834	1,975	3,224	—
合計	144,586	15,534	1,834	1,975	3,224	—

(*) 預金のうち、要求払預金290,889百万円は含めておりません。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券 (平成23年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	社債	11,818	12,322	503
	外国債券	4,193	4,201	8
	小計	16,012	16,524	511
時価が貸借対照表 計上額を超えないもの	社債	719	717	△1
	外国債券	3,302	3,282	△19
	小計	4,021	3,999	△21
合計		20,033	20,523	490

2. その他有価証券 (平成23年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	債券			
	国債	67,912	67,092	819
	地方債	—	—	—
	社債	160,627	159,673	954
	外国債券	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	228,539	226,766	1,773
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	債券			
	国債	20,093	20,194	△100
	地方債	4,981	5,006	△24
	社債	86,048	86,788	△739
	外国債券	—	—	—
	その他	3,090	4,363	△1,272
	小計	114,214	116,352	△2,137
合計		342,754	343,118	△364

3. 当事業年度中に売却したその他有価証券(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
債券			
国債	130,630	851	△68
地方債	—	—	—
社債	654	3	—
外国債券	197	—	△1
その他	288	—	△28
合計	131,770	855	△98

4. 減損処理を行った有価証券

有価証券(売買目的有価証券を除く。)で時価のあるもののうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理(以下「減損処理」という。)することとしております。

当事業年度における減損処理額はありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定められております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

(金銭の信託関係)

1. その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)(平成23年3月31日現在)

	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)	うち貸借対照表 計上額が取得原価 を超えるもの (百万円)	うち貸借対照表 計上額が取得原価 を超えないもの (百万円)
その他の金銭の信託	9,010	9,010	—	—	—

(*)「うち貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」「うち貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」はそれぞれ「差額」の内訳であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

繰延税金資産	
有価証券償却	202百万円
その他有価証券評価差額金	148
賞与引当金	43
繰延消費税	32
退職給付引当金	31
繰越欠損金	21
繰延資産償却	18
貸倒引当金	13
その他	44
繰延税金資産小計	553
評価性引当額	△15
繰延税金資産合計	538
繰延税金負債	
資産除去債務	13
繰延税金負債合計	13
繰延税金資産の純額	525百万円